

# 「慢性腎臓病患者におけるBNPの経時的変化を用いた緊急透析リスクの検討」に対するご協力をお願い

研究責任者 畔上 達彦  
研究機関名 慶應義塾大学医学部  
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者様へ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者様への新たな負担は一切ありません。また患者様のプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者様は、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

西暦2014年04月01日より2024年03月31日までの間に末期腎不全に至り、慶應義塾大学病院にて血液透析または腹膜透析導入となった方。

## 2 研究課題名

承認番号 20241197

研究課題名 慢性腎臓病患者におけるBNPの経時的変化を用いた緊急透析リスクの検討

## 3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学病院

研究責任者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上 達彦

## 4 本研究の目的、方法

慢性腎臓病（以下CKD）は進行性の疾患であり、一部の患者様では血液透析をはじめとした腎代替療法を生命維持に要する末期腎不全へ移行します。特に緊急透析が必要となる状況は、患者様の生命予後や生活の質に重大な影響を及ぼすため、これを予測または回避することが急務と考えます。一方で、適切な腎代替療法導入時期を決定するための指標は限られています。心不全のバイオマーカーとして知られるB型ナトリウム利尿ペプチド（以下BNP）は、腎機能悪化と心負荷の関連を反映し、CKDの病態進行を予測する有用な指標となる可能性がございます。

そこで本研究では、電子カルテ上のデータを用いて、BNPの経時的な変化が、緊急透析に至るリ

スクになりうるか、予後予測に関する有用性を解析させていただきます。

具体的には透析導入の状況別に、透析導入までのBNPの経時的な推移を記述的に評価するとともに、それらの予後との関連を評価させていただきます。

## 5 協力をお願いする内容

末期腎不全として当院で透析導入となった方のデータを使用し、緊急透析のリスクを評価するための解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

## 6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2026年03月31日

## 7 外部への試料・情報の提供

本研究は、慶應義塾大学を研究代表機関・研究事務局として実施される研究であり、本研究で収集された試料および情報は、外部の機関や研究者に提供されることはありません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

実務責任者：中山 堯振 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: takashin.nakayama@gmail.com

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第2・4・5週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前8時40分から午後4時30分]にお願いいたします。

以上